

発 言 者	発 言 要 旨
井上委員	<p>1 定時制高校への支援ということであるが、定時制といえはかつては働きながら学ぶということであったが、現状はどうなのか。また、学び直しの取組は自ら申し出るのか、先生側が薦めるのか教えていただきたい。</p> <p>2 特別支援学校の整備について、特別支援学校では、臨時的任用教職員や家族の協力を得て教育活動を展開している実情がある。教員の確保をどのように行っていくのか。</p> <p>3 チームぴかぴかは1年間在籍して民間への就労につなげるスキームだと思うが、1年間で就労につながらなかったメンバーはどうなるのか。また、障害者雇用率は、平成25年6月1日現在で1.76%とのことだが、「チームぴかぴか」事業を実施した結果、障害者雇用率は何%となったのか。</p>
高校教育指導課長	<p>1 まず、定時制の生徒の実態について、定時制の教頭会で集計をした数字がある。夜間定時制に関して申し上げますと、正社員として働いている生徒は3.2%、アルバイトをしながら学んでいるのは50%程度であり、働きながら学ぶ生徒は本当に少ないということになる。</p> <p>次に、定時制高校における学習サポーターの確保について、教員志望の学生にとっては定時制の子供たちに学習支援を行うことは、将来現場に立つことを考えると大いに意義があると考えている。そこで、教育学部のある大学などをお願いに行ったり、あるいは県教育委員会のホームページで募集をかけてリストなどを作ったり、場合によっては学校に照会したりしている。</p> <p>自ら申し出る者に学習支援をするのかについてだが、定時制の学校の多くは10人、20人ぐらいの生徒なので、全ての生徒を対象に個別の支援をしっかりと、一人一人の学習状況を把握しながら、卒業前までに基礎学力の定着に努めていきたいと考えている。</p>

発 言 者	発 言 要 旨
教職員採用課長	<p>2 特別支援学校の教員確保についてだが、本県の特別支援教育を推進する担い手となる、優秀で意欲ある教員を確保するため、従来は、高等学校等教員の志願区分の中で、特別支援学校教員の選考を行っていたが、本年度から新たに特別支援学校教員の志願区分を設けるなどの工夫を行っている。</p>
特別支援教育課長	<p>3 チームぴかぴかは1年間雇用して、就労に移行するよう支援する取組である。1年間預かって企業への就労に結び付けるが、1年だけでは難しい場合には最長2年でやっていかないと責任を果たせないと考えている。</p> <p>あくまでも1年で一般就労に結び付けることが大前提であり、就労に結び付いている例はすでに出ているところである。メンバーの状況を見てということになるが、2年間は前提ではない。</p>
総務課長	<p>3 「チームぴかぴか」が発足したのが、平成26年4月なので、1. 76%の数字には含まれていない。</p> <p>資料2の2(2)アにあるとおり、「チームぴかぴか」において、障害者を12名雇用しているが、これが平成26年6月1日現在の障害者雇用率にどの程度反映されるかは、その後、退職した教職員、採用した教職員、現職で新たに障害を有すると判明した教職員を含めた全体の数字の中で障害者雇用率を算出するため、現段階では明確ではない。</p>
井上委員	<p>こうした「チームぴかぴか」は良い取組である。この取組が事業として定着したときに、1年で結果を出したいが2年になるかもしれないというところではあるが、その方が一般就労するまでなのか、新しいメンバーが加わるのか、今から考えておかななくてはならないことだと思う。そうした点について確認したい。</p>

発 言 者	発 言 要 旨
特別支援教育課長	<p>メンバーについては今後拡充していきたいと考えているが、チームとして、ユニットとして考えていく。今後、成果を検証して考えていく。</p>